

寺  
ごよみ

十月

# 寺報 善巧

発行  
〒938 富山県下新川郡  
宇奈月町浦山497  
白雪山 善巧寺  
TEL (0765) 65-0055  
FAX (0765) 65-0975

報恩講	
一九日	午後一時 逮夜
二〇日	午前七時 初夜
二一日	午前十時 晨朝
二二日	午後一時 満座
二五日	布教 川崎順正師
二六日	東狐・青木報恩講
三一日	新浜・下飯野・高畠報恩講
三二日	板屋報恩講



若院の導師による報恩講のお満座

十一月四日・五日 空報恩講  
講話 布教 川崎順正師  
山本攝師

大体、階段は真っ直ぐ、ついておれば、一気に走れて良いものを、途中に踊り場なんかがあるから、あそこでタタラを踏まなければ充分間にあつたのにと、悔しまぎれにそんなことを思つたりした。

ところが、体重が二十貫を越えて、年も取つてくると、遠くに電車が来るのが見えて、次の電車にしようと、急いでころかえつて歩みをゆるめるようになつた。そして、階段を重い身体を支えながら、フウフウ云いながら上つて、途中の踊り場

すこし前まで、私は二十貫を越す巨体だった。もつと前の二才前後は、十六貫位で水泳の選手をしていた。

水泳をしていた頃には、駅の手前でホームに進入してくる電車を見つけると、長い階段を一気に三段づつ位上り、改札所を定期を見せながら走り抜け、また、階段を駆け降りてギリギリ電車に間にあつた。しかし、たまには目の前で電車のドアが閉まってしまうこともあつた。ドアの向こうの乗客と目があつたりして、そんな時のバツの悪さは誰でも知つてゐる通りである。

大体、階段は真っ直ぐ、ついておれば、一気に走れて良いものを、途中に踊り場なんかがあるから、あそこでタタラを踏まなければ充分間にあつたのにと、悔しまぎれにそんなことを思つたりした。

ところで、体重が二十貫を越えて、年も取つてくると、遠くに電車が来るのが見えて、次の電車にしようと、急いでころかえつて歩みをゆるめるようになつた。そして、階段を重い身体を支えながら、フウフウ云いながら上つて、途中の踊り場

## 報恩講をむかえて

才の年にご長男の普賢さまを勘當されている。しかし、この孤獨の中から大きなご恩をかみしめて、喜びの人生を味わつておられるのである。阿弥陀さまの救いが、どのように大きく、親鸞聖人が喜ばれたお念仏が、どれほど深いご恩であったかを、この報恩講に味わいたいもので

のところで一息入れるのである。そして、始めて踊り場が足を休めるために造られていることに気がついた。

若いころ邪魔だった階段の踊り場が、造った人の親切であつたと気づいて見れば、コンクリートの粗末な階段に、ちゃんと手

くりまでついているのである。元気な時や、有頂天になつている時には一つも感じしない、人

の親切やご恩は、自分が苦しかつたり悲しい時に、身にしみて受け取れるようである。

孤独とは、孤は幼くして親と別れ、独は老いて子と別れるという意味であるが、親鸞聖人のご一生は、孤独そのものであつたと思われる。九才で親と別れて叡山に上り、八十四

## 空華忌講話(2)

行信教校校長 利井明弘

平五

花

この和讃方軌は三つあるんですよ、三帖和讃ですから「淨土和讃方軌」と「高僧和讃方軌」と「正像末和讃方軌」と三冊あります。

で「淨土和讃」と「高僧和讃」が書かれてあるんです。だからこの二つは一対なんです。

よく考えたら、今読まれた『正信偈』もありがたい御文で

ね、二百回忌にもいらっしゃっていた山本先生が、私たちに、

淨土真宗の全体を詳しく広げて言ったら、親鸞聖人の『教行信証』になる、その全部詳しく述べたのを扇に例えると、扇を全

部開いたところや。それをバタバタと閉じて一本にしてその一

番の要旨を、大切な味わいをうたってくださいたのが、「正信偈」で、それは同じこの扇でも

お作りになつたのが七十六歳のお歳です。ところがですね、実はご和讃でいうのはあれで終わっているんですね。終わつて

るつて言うのはおかしいけど、あれで完成しているんですね。

『淨土和讃』と『高僧和讃』で完成していると言つていひんです。なぜかつて言いますと、高

田のご本山にある古い写本には淨土和讃の上巻と下巻という形

それをもう一つ申しますと、

「帰命無量寿如來南無不可思議

人が「淨土和讃」と「高僧和讃」

をお作りになつたのが七十六歳

の時

に

完成して

す。

なぜかつて言いますと、高

田の

ご本山

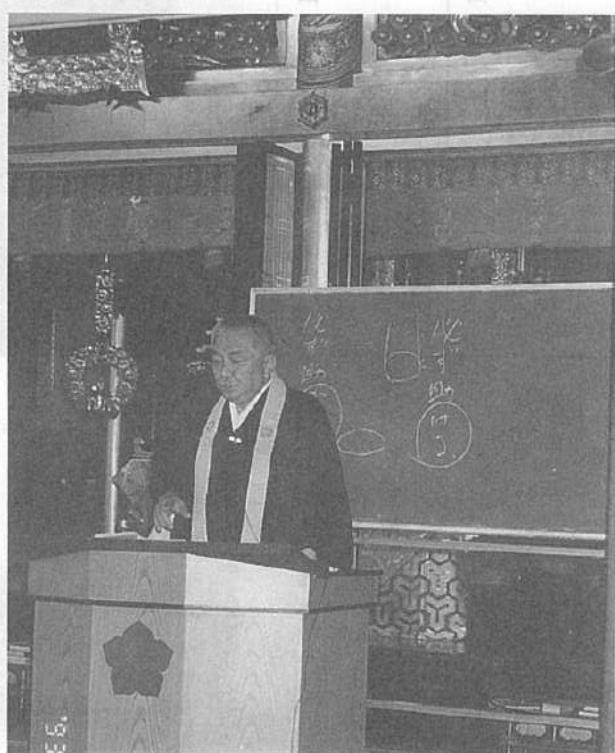
にある

古い

写本

には

淨土和讃の上巻と下巻という形



光』から「唯可信斯高僧説」まで

で終わるあの百二十句の正信

念仏偈は真ん中で二つに分かれ

るんです。それが「難中之難無

過斯」というところまでが全部

お経をよりどころにしてうたわ

れたところなんです。それから

その先に続く「印度西天之論家

中夏日域之高僧」というところ

から「唯可信斯高僧説」までが

七高僧の教えを讃談されたとこ

とろなんです。

ところがね、ご和讃はそれにつけ「正像末和讃」が一旦でてくるわけですよ。僕が味わっているんですけど、これはやっぱりすごいご和讃ですな。

するとお経によつてうたわれたところと、七高僧のお言葉によつてうたわれたところが、一緒になつて淨土真宗の全体が顕されている。これが「教行信証」で、それは同じこの扇でも

バタバタと閉じたところで、短く百二十句のうたにしてくださつた。要が「帰命無量寿如來南無不可思議光」だとうおっしゃつた。

親鸞聖人は七十六歳の時に

淨土和讃と高僧和讃が完成して

いる。ところが正像末和讃は八十六歳です。十年経つて。こ

れを一本にしたところ。ところが和讃も同じで淨土和讃は、お

病人の姿が説いてあるんだと言

うてるんですけど。僕は、ちょっとそれに付け加えますわ。病人

が薬を飲んで間違なく治ると安心した姿。もう薬飲んでるん

ですわ。飲んでない人に飲めと

言つて、正像末和讃はその薬を飲んでおられる親鸞聖人のこの

お念佛いただいた喜びをですね、ゆつくりと一人で味わつておら

れる。

淨土和讃、高僧和讃は七十六歳、この正像末和讃は八十六歳。

この十年の間に何があつたか。

実は親鸞聖人八十四才の時に大事件が起つております。長

男の善鸞さまを義絶しておられ

ました。夫がお淨土に参れる薬のことがうたつてあると。地獄に落ちんならんもんが、この薬をいたら、お淨土へ参れるという、そういう薬が説いてあるのが、

『淨土和讃』。

七高僧はお医者さんや、お前この病気にかかつた者にはもうこれしかなぞ、この薬をいただきなさいよ、と言われたのが高僧和讃。

最後の正像末和讃のことを、病人の姿が説いてあるんだと言

うてるんですけど。僕は、ちょっとそれに付け加えますわ。病人

が薬を飲んで間違なく治ると安心した姿。もう薬飲んでるん

ですわ。飲んでない人に飲めと

言つて、正像末和讃はその薬を飲んでおられる親鸞聖人のこの

お念佛いただいた喜びをですね、ゆつくりと一人で味わつておら

れる。

淨土和讃、高僧和讃は七十六歳、この正像末和讃は八十六歳。

この十年の間に何があつたか。

実は親鸞聖人八十四才の時に大事件が起つております。長

男の善鸞さまを義絶しておられました。夫がお淨土に参れる薬のことがうたつてあると。地獄に落ちんならんもんが、この薬をいたら、お淨土へ参れるという、そういう薬が説いてあるのが、

『淨土和讃』。

い切りたり」とあります。皆さんは孤独というでしょ。孤独っていう言葉はね、孤というのは、幼くして親と別れることを言う。独という、一人という字は、老いて子と別れるのを言う。だから親鸞聖人は、絵に描いたような孤独なんですよ。九才で親と別れて叢山に、八十四歳で子と自分の手で別れていかなきやなんかつた。しゃばで言えばこんな苦しいことはないでしょ。

弟が病気になり再起どうもかなわんとなつた時、父がおあさ

じで隆弘がお淨土へ帰るかとい

うて、涙を流したという話を私

は聞きました。やっぱりそのく

らいつらいことなんです。隆弘

が父の突然の死に、仮通夜に帰っ

てきました。父の前で言つたこ

とが二つあります。「お父さん

ありがとうございます。これでぼくも行き

やすくなつた」もう一つあるん

ですよ。「これで親不幸をせん

ですんだ」とこう言つた。死に

別れでもそなんですよ。

元気でおられるのに自分の手

で切らなきやならんかつたと言

うこの悲しみ、この苦しみと言

うのは、いかばかりであつたか

と思います。その悲しみの中か

ら、出てくるのが『正像末和讃』

なんですよ。

今皆さんのお手元にお渡しした

「康元二歳」という年は、親鸞聖人八十五歳の御歳です。とうことは前の年に、善鸞さまを義絶し、その明くる年の二月九日の夜、明け方（四時から六時まで）に夢を見られた。

その夢を僧鎧和上はこう書いておられますよ。この夢に見られたご和讃はばんどう本や、高田本にはこの一番前にはないんです。古い本にはまだここまで正像末和讃は完成していないんですね。だから、親鸞聖人がお亡くなりになるまでにこの正像末和讃に手を入れられたに違いない。そして最後にこの間に入つてましてね、夢に見たって言ううたが、「うれしさのあまりに書き付けたり」というお言葉まで書いてあります。それでね、そのご和讃を一番最初に出して書かれたんです。正像末和讃の、やつぱりこれが親鸞聖人のその時の喜びの中心だったわけですよ。それを夢に見たって言つんだから。

今度は逆に言いますと、親鸞聖人がご和讃全部お作りになつたもので、このご和讃だけは親鸞聖人作ではないということがあります。その悲しみの中から、出てくるのが『正像末和讃』なんですよ。

一番最初に、「康元二歳丁巳二月九日の夜、寅の時夢に告げて曰く」とこうあります。この聖人八十五歳の御歳です。といふことは前年に、善鸞さまを義絶し、その明くる年の二月九日の夜、明け方（四時から六時まで）に夢を見られた。

皆さんここでは報恩講の時に御伝抄読む？あの御伝抄のね、蓮位というお坊さんがおられるんですが、親鸞の秘書ですわ、この秘書のお方が夢に見られたという話が書いてある。どんな夢や言うたら、夢の中に聖徳太子と親鸞聖人が現れられた。聖徳太子がしきりに親鸞聖人を拌んで、そしてお言葉を述べておられる。どんなお言葉かとわかれやすく言つたら、あなたは日本にお生まれになつた阿弥陀さままでござりますと、礼拝しておられたと言うんですよ。こういふ夢を見たと言う話が第一段に出てきます。ところがこれがまたおかしい。二月九日の夜やもん。寅の時や。それが一年先です。だから親鸞聖人より一年先の二月九日の夜の寅の時、お弟子の方が先に見てる。それと夢を見させてもらおうといつても思うんだけどあかんね。ふと気が付いたら二月九日が過ぎてんのよ。（笑）ろくな夢を見ないんですね。夢と言うのはなかなかおもしろいもんですね。



一日 お講・愛本新

二日 雪ん子劇団&シニア  
三日 新川文化ホール公演

二日 六時十五分開演  
三日 六時開演  
前売り千円

当日券千二百円

## 空華忌

四日 午後七時半 初夜  
五日 午前七時 晨朝  
午前十時 日中  
午後一時 満座

講話 山本撮先生

七日

上野報恩講

四日

魚津報恩講

五日

中新報恩講

六日

お講・浦山新

七日

出報恩講

八日

中陣報恩講

九日

柏沢報恩講

二日

中陣報恩講

三日

浦山新報恩講

四日

浦山新報恩講

五日

石田報恩講



善巧寺にまた一つ夢の花が開きました。いきさつは、隆弘法師の祥月命日九月十七日付の北日本新聞でご覧の通りです。

雪ん子十五年目に  
またひとつ夢の花  
『雪ん子シニア』誕生

才から二十五才までの卒業生が、感動を共にして以来、そのワクワクが続き放しです。今年は戦後五十年の節目でもあり、宗門でも戦争の悲惨さといのちの尊さの問題に目が向けられている今、戦争を知らない子供達が戦時中の少女達を演じるのもご縁の深さを感じます、「さるべき業縁のもよおさば、いかなるふるまいもすべし」と

仰せられた顕鸞聖人のお言葉を聞かせていただきながら、いのちの尊さを皆様に伝えていくことでしょう。どうかシニア達の夢の花を咲かせるお手伝いと応援をよろしくお願ひします。

十一月にオープンする新川文化ホールはシニア旗上げ公演にぴったりの豪華な劇場です。是非チケットをお求めの上、ごらん下さい。

# しあわせ色の青い空

## あの戦争の時代にも



新川文化ホール

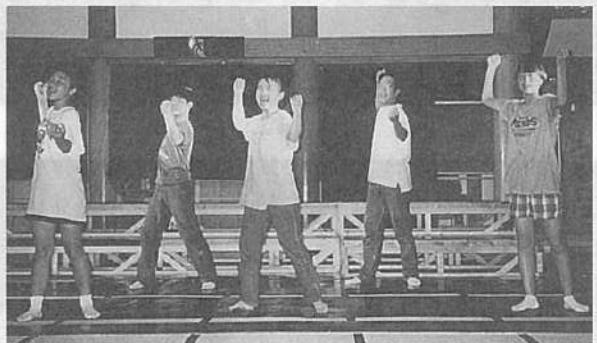


今、地元の若者たちが  
燃えて輝いて

織り成す夢の舞台！

七七七

あなたと恋愛の洞の中に！



忘れないで愛と夢と心といのち  
たった一度の人生だもの  
精一杯いまを生きようよ

群馬のペンフレンドが見学に



雪ん子合宿



この夏  
お寺は  
大繁盛

青年益会 — 本堂で音楽法要のあと会館ではなごやかに



こども盆おどり



↓金沢の『劇団さくらんぼ』との交流会のあと、お別れのひととき



↑俳優座の遠藤剛さんを囲んで

↓会館ホールは二つの劇団で百人以上がぎっしり



# 隆弘法師の

## お祥月命日

九月十七日、隆弘法師の祥月

命日に、大阪から同級生が三人  
おまいり下さいました。小、中  
学校の仲良しグループで懐しい  
話に花が咲きました。

入善から、見知らぬ女性が二  
人そつと参詣されたり、お花や  
お供えが届いたりで、一きわ思  
いを深くするこ



## 住職近況

今年はことの他暑い夏でした

が、住職はめげずにがんばって  
過ごしました。食欲旺盛、話も  
はずみます。週に一度のデイサ  
ビス、「おらはうす」の入浴を  
楽しみにしています。朝はお内  
仏で「讚仏偈」を大きな声で読  
むことも度々。ご安心ください。

何處までも黒部磧や  
虫すぐ  
寝たきりの久しくなりぬ  
地虫なく

## お寺の荒れ田園

### 炎天下の草刈り

七月三十日、浦山の総代中山

慶太郎さんのお声がかりで二八  
〇〇畝のお寺の田園の草刈りが  
行われました。若い門徒さんの

応援もあっておよそ三時間で作  
業は終りましたが、なにしろ暑  
い最中で、総代さん方にはきび  
しい重労働になりました。深く

お礼申し上げます。

橋本庄吉、西中正毅、本波光雄、  
本波秀夫、野島義春、沢田最一、  
岩上巳之助、野畑一雄、大島清  
久之、川瀬久義、大藪良造、開

沢弘之、森岡昭一、高島有哲、  
一、高島彦久、中村忠夫、嶋田  
久之、川瀬久義、大藪良造、開



JLBC ジャパンレディースボ  
ウリングクラブ 機関誌 7号より

神子巧、雪山俊隆、教隆(敬称略)  
八月六日、中山慶太郎、中村  
忠夫、山内健一の三氏が刈りとっ

た草をもやして下さいました。

念珠をして参加してくれました。

ホットな気分でこれから教師

習礼に出かけます。本業の方も

怠らないようにがんばってきま

す。では十一月二日三日に!

川文化ホールのこけらおとしで  
すから、いやが上にもり上が  
ります。

そこで上演しようと、今、練  
習しているのが「しあわせ色の  
青い空」というミュージカル。

この夏休みの一ヶ月は、お寺  
の行事、法務全てにわたって勤  
めることができて、実に充実し  
ていました。特に七月二十八日、



若院隨想

Gの中から、二十余名が感動の  
舞台を創り上げようと集まるよ  
うになつたのです。しかも旗上  
戦争のさなかヘタタイム  
スリップします。着る

ものも食べるものもま  
まならない時代、親や兄弟を失  
いながらも、夢を持ち、懸命に  
生きようとする少女たち。その  
姿を見た現代の少女は、いのち  
の尊さを教えられ、たつた一度

妖精たちが、少女を連れ  
て昭和二十年太平洋  
戦争のさなかヘタタイム  
スリップします。着る

られます。又、それだ  
けでなくあんな時代に  
あんなに生き生きと精  
いっぱい生きた少女た  
ちのように、現代の僕

達が本当に毎日を充実させて生  
きているだろうかということも  
考えさせられます。この作品を  
どこまで仕上げることが出来る  
かわかりませんが、是非多くの

人そつと参詣されたり、お花や  
お供えが届いたりで、一きわ思  
いを深くするこ

この劇は、涙あり笑いあり、感  
動ありで、みんながのめり込ま  
ざるを得ないほどすばらしい作  
品です。

両親を信じることが出来ず、  
夢も希望も失なつて自  
殺しようとする少女を  
助けようと夢の世界の

人生を、精いっぱい生き抜こ  
うと心に決めるのです。  
僕達は戦争を体験していま  
んが、この芝居をやり役に入る

ことで戦争の擬似体験ができま  
す。萬分の一もわから  
ないかも知れないけれ  
ど、いろいろ考えさせ  
られます。又、それだ  
けでなくあんな時代に  
あんなに生き生きと精  
いっぱい生きた少女た  
ちのように、現代の僕

達が本当に毎日を充実させて生  
きているだろうかということも  
考えさせられます。この作品を  
どこまで仕上げることが出来る  
かわかりませんが、是非多くの

須田プロに強力応援(雪山さん母子)  
●「お茶の間説法」でお馴染みだった浦  
山善巧寺の故雪山隆弘氏の奥様玲子さん  
と、現在京都に在学中の次男教隆さんが  
須田プロの応援にかけつけてくれました。



音沢報恩講

宇奈月国際会館セレネ

親子楽しみ会雪ん子出演

雪ん子チャリティーショー

音沢報恩講

宇奈月国際会館セレネ

親子楽しみ会雪ん子出演

雪ん子チャリティーショー

# 報恩講

第73号 平成6年10月1日

## 寺報 善巧

お寺の報恩講が近づいてまいりました。十月十九日、二十日には、おさそい合わせの上、是非お参り下さいますように。ホンコさんは親鸞聖人のご法事です。浄土真宗の門徒として重要なご法要です。何よりも大切に。

## 空華忌

善巧寺にとつて大切なご法事、明教院僧鎔さまのお祥月命日の法座です。お弁当も準備しています。お忘れなくおまいりください。

今年は故山本仏骨先生のご子息、行信教校講師山本攝先生のご講話です。

## ご奉仕お願ひ

十月十二日朝八時 お道具磨き  
十六日 ノ 清掃  
十八日 ノ お華束もみ  
十一月一日八時 清掃  
十二月一日八時 年末越冬清掃

十月十九日 午後一時 逮夜

午後七時半初夜

十月二十日 午前七時 晨朝

午前十時 日中

午後一時 満座

布教 川崎順正師

十一月四日 午後七時半初夜

五日 午前七時 晨朝

午前十時 日中

午後一時 满座

講話 山本攝師

報恩講、空華忌と大切なご法要がまいります。みなさまにもお忙しい時期とは存じますが、この恒例行事をお迎えする為、本堂の莊嚴、内回り外回りの清掃などご協力をよろしくお願い致します。

各地区から、ご都合のつく日にご参加いただければ幸いです。

## きつと見てね

黒部の劇団フロンティアとの合同公演です。

前売券 千円(全席自由)

当日券 千二百円

前売券はお寺にあります。足の便のない方は送迎も考えておりますので、お申し出下さい。

合

掌

この夏も沢山の方が善巧寺に

足を運んで下さいました。何といつても多いのは子供たちでしょ

う。雪ん子が、盆踊りを含めて十一日間。お講や法事を入れると、八月三十一日の間、誰も来なかつた日が三日だけ。何と繁なお

寺で。シニアに至ってはあまりお寺に行きすぎるので、

ちょっと控えさせなくてはという外野の声がでるほど。お寺は

みんなの心のふるさとです。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇  
今年もホンコさんの時期がまいりました。家族揃って迎える年に一度のおとりこし報恩講。

・赤いろうそくの準備はできていますか。・お仏壇のおそうじ、お花、お仏飯、おかげとお忘れなきよう。・お焼香のお作

法も、一礼して一回つまんでべるだけ。あとは合掌、お念佛、礼拝、一札と真宗のお作法通りに。・ご一緒に聖典をひらいてお正信偈を読んでください。・善巧寺、法輪寺、照行寺の三人で伺わせていただきます。



◇ ◇ ◇ ◇ ◇  
九月二十九日、長男俊隆が住職の資格をとつて帰院しました。